ステパノだより

9月号　No.235

今月の聖句

『狭い門から入りなさい。』

マタイによる福音書　第7章13節

◎9月の予定

2日(月) 二学期始業礼拝
3日(火) 給食開始
5日(木) かながわシェイクアウト訓練
6日(金) 祭前祭
7日(土) ステパノまつり
9日(月) ステパノまつり代休
10日(火) 聖書教室
14日(土) 学校説明会②
18日(水) 内科検診
19日(木) 創立記念日・創立記念礼拝
20日(金) 教務委員会
24日(火)～26日(木) 体験学習①（中）
26日(木) 教職員協議会

◎10月の予定

1日(火)～3日(木) 教科テスト（中）
3日(木) 校内研修会
8日(火)・9日(水) 入学願書受付（小）
10日(木) 運動会予行練習
12日(土) 運動会
14日(月) 運動会予備日

7月25日（木）～27日（土）
「富士山麓山の村」では最後になるサマーキャンプ（小4～中3）が実施されました。

小富士頂上

◎今月の行事から

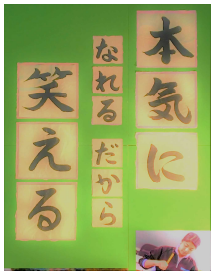
○シェイクアウト　5日(木)
　学期ごとに避難訓練等を行っています。シェイクアウトは、神奈川県で参加登録をした団体が、同じ時間にそれぞれの場所で身の安全を守る姿勢をとる訓練です。

○ステパノまつり　祭前祭
　6日(金)　三・四校時
　ステパノまつりの前日には「祭前祭」が催されました。児童生徒が上級生・下級生の企画をたずねて、楽しみながら双方の体験ができる機会になりました。

○ステパノまつり　7日(土)
　「熱くなれ！　違いを見せるぜ！　ステパノまつり」がテーマの今年は、実行委員会からの発信が全体に広まり、各企画で夏休み中も活発な準備・練習をしました。
　昨年より今年を、更により良いものをという気持ちで、各コーナーを盛り上げることができました。

○創立記念礼拝　19日（木）
　創立者　澤田美喜のはたらきをおぼえて、海の見えるホールで9時から礼拝をおこないます。お時間のある方は是非ご出席ください。

◎今年度学園広報
　スローガン
中三　MAさん
　の毛筆による書
（学園長表彰）



夏の聖公会関係学校研修会
「西原廉太氏の話から」

学園長　小　川　正　夫

八月二十一日から三日間、箱根湯本富士屋ホテルで第六十二回聖公会関係学校教職員研修会が開催され、日本各地の関係学校からの代表百六名の参加者がありました。

主題『聖公会のミッションと伝統の現代化』について立教学院・副院長、キリスト教学校教育同盟理事長、神学博士・西原廉太先生から講演がありました。

豊富な資料と格調の高い次のようなお話で、教えられることがたくさんありました。

＊聖公会関係各学校の「建学の精神」から。
＊聖公会の＜ＶＩＡ　ＭＥＤＩＡ＞理解。
＊「理性」と「伝統」。
＊聖公会学校のルーツとミッション。
＊「聖書」を読むこととは。
＊多様な一人一人の存在を大切にすることと

聖公会学校の使命。

＊聖公会学校共通の「学修成果」の指標提案。
・（世界聖公会）の宣教の五目標。
・聖公会も大切にしてきた伝統的な教会の五つの要素。
・リベラルアーツの本来的意味。
・真理を探求することができる。
・一人ひとりの存在を大切にできる。

最後に下町のロケットのモデルとなった植松努さんのメッセージが紹介され、夢を抱き地味な努力を積み重ねることの大切さを感慨深く語っておられました。

中でも「聖書を読むこととは」についての内容は、皆様にも紹介したいと思いました。

「聖書は読むものというより食べるものだ」という言葉を聖書や、著名人の言葉などから引用して話しておられました。

＋「聖書」は「神の絵本」であると言われる。
＋神の働きという見えないものを、文字という絵の具を使って描いた「絵本」。
＋マタイによる福音書第４章１～４節「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」。
＋エレミヤ書第１５章１６節「あなたのみ言葉が見いだされたとき、私はそれを食べました」とあります。預言者エレミヤが迫害に遭いながらも、神から預かった言葉を民衆に語り続けたのは、「神の言葉」を読んだからではなく、神の言葉を食べたから。
＋イエスは民衆に「悔い改め」を求めておられますが、「メタノイア」悔い改めるということは、視点を変えること、生き方を変えることで、それは「神の言葉を食べる」ことによって実現する。
＋聖書に生きる人はみな、聖書を読み捨てるのではなく「食べ」「噛み砕いて」生きた。聖書は読むものではなく「食べるもの」だ。
＋「読書」とは言葉を噛み砕きながら「食べ」真理を「味わう」行為である。
＋聖書を読む行為～私達聖公会学校は、殊に「言葉」を大切にすべきで、子ども達に「聖書を食べさせる」ことに心をおきたい。
＋「聖書の物語」と「私達の物語」の共鳴。
＋私達教育者のミッション～物語を手仕事的に子ども達に伝え、子ども達の思いの一つ一つに丁寧に耳を傾けることを勧めています。
＋また、俵万智の体験的読書論の中で子どもは、言葉を覚えるのではなく「食べる」。
＋自分に喜びをもたらしてくれる「おいしい言葉」を子どもたちは「食べ」「味わう」。
＋望月修治の「おいしい言葉を日々の糧として、子ども達に、いわば口移しに食べさせることが、親や大人の務めである」という言葉を引用していました。

聖書を読む、読書するとき、よく噛み砕いて食べるようにして、言葉の持つ意味を確り身につけるようにということは、今の時代、見た目が良く、柔らかで口触りが良く、飲み込み易いものが好まれる時代であればこそ大切なことかもしれません。

二日目の午後、自由参加ですが、聖ステパノ学園訪問プログラムが計画されており、四十八名の方が来校、澤田美喜記念館、海の見えるホール、森の中の教室、小学校棟、体育館をご覧いただき、それぞれの建物のコンセプト「込められた願いと意味」をお聞きいただき大変好評で喜んで下さいました。

小さな働きに大きな愛を込めた、日本聖公会聖ステパノ学園ここにありの一日でした。

第五十二回全国聖書科研究集会に参加して

教諭　宮崎　幹子

六月二十日から二十二日までの二泊三日の日程で、広島女学院を会場に第五十二回全国聖書科研究集会が開かれました。主題は「キリスト教学校につながる喜び‐多様性の尊重と共生をめざして‐」であり、課題は「道徳教育を超えるキリスト教教育の可能性～広島女学院の平和教育の実践から学ぶ～」でした。

この研修会には、北は北海道から南は九州までさまざまな学校から七十名以上の参加者がありました。参加者は各学校でキリスト教教育を担っている方々が多く、私はそうした方たちと出会い、話ができることに大きな喜びを感じながら研修会に参加しました。自分が大学院で学び、大好きな分野である聖書を専門とする方々の仲間に入ることができたことが本当にうれしかったのです。

まず、主題に関して自分の感じたことをいくつか書いてみたいと思います。まず、「キリスト教学校につながる喜び‐多様性の尊重と共生をめざして‐」ですが、先にも述べたように多くのキリスト教学校の先生方々と交わりをもち、共に祈るなかで、聖ステパノ学園は小さな学校ですが、こんなに多くの学校の一員であり、キリスト教学校同盟加盟校の多くの祈りに支えられているのだという実感をもちました。

そして、多様性という点では、「キリスト教」というと何か一つの決まったものがあるように感じられるかもしれませんが、「象の例」によくたとえられるように、ある人は象と言いながら、象の鼻をさわっているし、また、ある人は象の背中をさわっていると言われるようにその信仰には多様性がある。また、信仰に限らず、人には個性があり多様性がある。その多様性を受け入れながら、他者と共に歩むというキリスト教の基本姿勢の確認をしました。キリスト教以外の「一般」の社会では画一化をはかろうとします。しかし、キリスト教の「一般」では、多様性を受け入れ、共に生きようとします。このことを思う時、キリスト教ってなんて素晴らしいのだろうと心から思います。

課題の「道徳教育を超えるキリスト教教育の可能性～広島女学院の平和教育の実践から学ぶ～」では、原爆で多くの生徒の命を失った広島女学院の平和教育の成果を見せていただきました。『愛と平和を説くキリスト教の教えを守り、被爆を体験した学校として真の平和を祈り、そのために解決すべき課題を改めて考える期間』として6月に「平和を祈る週」があります。研修では佐藤優氏(同志社大学神学部、同大学院修了。その後外務省勤務を経て現在、同志社大学神学部客員・作家)の講演がありました。

これまでもキリスト教学校教育同盟では、道徳教育のもつさまざまな問題点を提示してきました。私は今回の研修を契機に意識をして今回研修テーマであった道徳教育を超えるキリスト教教育について考えていきたいと思います。

最後になりますが、私が広島女学院を訪れた週、広島女学院では、平和を祈る週でした。佐藤優氏の礼拝でのお話を聴きながら、平和を祈りました。礼拝では、広島で見た広島平和記念資料館での悲惨な原爆の被害や広島女学院の生徒さんたちが案内してくださった平和公園のさまざまな像のことを思い起こしていました。広島女学院の生徒さんたちと、私たち聖書科研究会参加者が一つになって、心を合わせ、声を合わせ、讃美歌を歌う経験は、忘れられない体験となりました。

私は自分が見聞きしてきたことを、聖ステパノ学園の子どもたちにも伝えていきたいと強く思いました。

広島女学院の生徒さんの案内で
「原爆の子の像」を見学しました。

教職員自主研修旅行

教諭　中村弘之

夏休みになると様々な研修会が開催される。教職員は研究に役立つものや、自分に足りない知識を補うものなどを選び参加する。

自主研修旅行はそれらとは異なり、聖ステパノ学園の教職員が自分たちで研修目標を定め、それに沿って計画・実行するものだ。とはいえ、そう硬いものではない。ゆっくり語り合い、行く先々でご当地の味を楽しむことは、二次的なものとはいえ大事な要素となっている。

最近は、自分を含め新しい教職員が増えたため、聖ステパノ学園の歴史を知る研修をしてきた。２０１６年は、鳥取県岩美町へ行った。澤田美喜先生が子どもたちを海で泳がせるために連れて行った場所で、ご主人の澤田廉三氏の故郷である。「えっ、大磯にも海があるのにどうして鳥取まで？」と思うが、戦後の大磯では差別が激しく海水浴などできなかったのだ。私たちも当時子どもたちが宿泊していた「鴎鳴荘」を訪れ、その目前にプライベートビーチのように広がる熊井浜で泳いだ。また、澤田夫妻が眠る浦浜の海が見える丘の上にあるお墓に伺うこともできた。

２０１７年は、岩手県雫石町の「小岩井農場」へ行った。面積が約３０００ha（東京ドーム６４０個分）で、町が２つ３つ入るほどの広さだ。１８９１年に開設された。創設者は鉄道庁長官だった井上勝、日本鉄道会社副社長の小野義眞、三菱社社長岩崎彌之助で、三人の名前から一字ずつ取って小岩井農場と命名された。東北の荒野に先進的な西洋式の大農場を作ったのだ。岩崎家が関わっていたため、澤田美喜先生はここへも子どもたちを連れて行った。この農場で子どもたちはのびのびと遊んだことだろう。澤田美喜先生の子どもたちへの思いが伝わってきた。

またこの年は平泉の中尊寺、高村光太郎記念館も訪ねた。「高村光太郎記念館」は花巻市の東北を代表するような農村地帯にあり、光太郎が晩年住んでいた粗末な小屋が保存されていた。記念館はシンプルだが光太郎の精神をよく伝えていた。宮沢賢治とならび東北を代表する詩人である。研修を通して東北の田園地帯を車でだいぶ走ったが、どこも美しかった。田畑がきれいなのだ。周囲の草が伸びていない。藪がない。使えなくなった機械や肥料の袋などが始末してある。相当の労働とそれを支える高い精神性が必要だと感じた。

２０１８年は、清里のキープ牧場へ行った。聖公会の施設である。学園理事でもある大野司祭にお話を伺い、教会が清里の開拓・発展の要となってきたことが分かった。

同敷地内のポール・ラッシュ記念館も見学した。ポール・ラッシュは、日本にアメリカンフットボールを伝えたとか、立教大学で教えていた程度のことしか知らなかったが、日本を愛した人で、信仰をもとに、清里に合った酪農や、高原野菜の栽培を普及させたり、戦後、ＧＨＱとして再来日し東京裁判で戦犯の罪が少しでも軽くなるよう奔走したりしたことを知った。アメリカで、もっと高い地位に就くこともできた人だが、日本でのキリスト教布教を、労働を通して、精神生活だけではなく実際の生活も豊かになるよう導いた人だと知ることができた。上田市の郊外にある「無言館」へも行った。第二次大戦に出陣していく画学生が書き残した作品が展示してある。家族や、思いを寄せた女性の絵が多い。どのような思いで20歳前後の若者がこの絵を描いたのか。見ているとその重さが迫ってきた。

聖ステパノ学園ゆかりの地は大体見たので、２０１９年は、知見を広めるべく栃木県の「足尾銅山」(教科書に田中正造の足尾鉱毒事件が出ている)、「富岡製糸場」(世界遺産、戦後近代的模範工場として官立された。女工哀史的な当時の現状とは一線を画す)、埼玉県東松山の「原爆の図　丸木美術館」へ行った。足尾銅山では、坑道の見学後、強制連行された朝鮮人、中国人の慰霊碑も見た。現地でトラック一杯、二杯という単位で集められた労働力だったそうだ。

今後も自分たちの目で見て、感性を豊かにする研修を続けたい。

新任教師研修会に参加して

養護教諭　土橋久美子

子ども達と接する際に大切にしていることがあります。その中でも、最も重要なことの一つが、自分の言動そのもので子ども達に見本を見せるということです。

保健室のなかで健康に関する正しい知識を教えていくことは当然ですが、保健室を出ても、積極的にあいさつをすることや周りの人への態度、言葉の選び方、言葉や態度に出てくる考え方など、子ども達が聖ステパノ学園を離れてからも役立つことや身につけてほしいことを私自身の言動から学んで欲しいと思っています。養護教諭が子ども達と接する機会はそう多くはなく、担任の先生や教科の先生とは違い、伝えられる時間は不規則で決まった授業もありません。子ども達が見ている、学校での私の言動そのものが指導の材料となり、子ども達に影響を与えます。普段から、教員がどのような言動をとるのかということを、子ども達はよく見ているなと思うことは少なくありません。どんなに立派なことを言っていても、実際の言動がかけ離れたものであれば子ども達への説得力はなくなり、いざ困ったことが起きても「保健室の先生に相談してみよう」とはならないだろうなと思うのです。

私は聖ステパノ学園に来るまで、キリスト教に触れたことがありませんでした。日々の礼拝などの様子や姿勢も子ども達から学ばせてもらっているという一学期の状況の中で、知識のないキリスト教に関するすべてのことについては、前述したような「私自身から学んでもらう」ということができません。子ども達が私を見てどう思っているのか、とても不安でした。

そのような状況の中でキリスト教学校の先生方が集まる新任教師研修会に参加させていただくことができ、とてもよい時間を持つことができました。

講師の先生方のお話をうかがう中で、大きかったことは「子ども達はもちろんのこと、教員も一人一人の存在を尊重する」という考え方です。それは、たとえ自信がなかったとしても、同じような立場に置かれている子ども達にとっては最も身近な存在であり、そのロールモデルとなることができるのだから、積極的に関わって欲しいということでした。このお話をうかがったとき、そういえば普段から「できない自分」を子ども達に隠したり、直接否定したりするようなことは避けるようにしていることを思い出しました。子ども達は、自分の近くにいる大人にはいいところを見て欲しいと感じていることが多いです。それは、やはり期待してくれている人たちに応えたい、自分のしたことで喜んで欲しいという思いが根底にあります。クラスのみんなができている（ように見える）ことや、誰もができて当たり前（だと思いこんでいる）ということを、自分はできていないという認識でいることは、子ども達がすんなりと学校や教室へ向かう気持ちを挫きます。「できない自分」は期待してくれている人を悲しませてしまうと思うようです。保健室に来室した子どもからそんな気配を感じた時、できないことを少しでもできるように頑張ることが大切で、結果如何だけではないのでは？ということを伝えるようにしています。

言うまでもなく、学校は集団生活の中で社会に出るために必要な様々なことを学ぶ場所です。何でもできるのならば学校に来る必要はありませんが、そんな人に出会ったことはありません。もちろん私も何でもできるわけではないので、できないことを受け入れて学ぶ姿勢を子ども達に見てもらい、学んでもらえたらいいロールモデルになるのではないかと思いました。

できないことがあることや誰かと比べて劣っていると感じることは、居心地のいいことではありません。しかし、それを受け入れて前に進むことで、自分の成長を実感できるのだと思います。そのためのサポートをこれからも続けていきたいと思います。

YMCA 東山荘

【小学校】

夏休み前の七月二五・二六・二七日にサマーキャンプがありました。目的地は、富士山麓山の村でした。山の村は、今年の十月で閉村になると聞きました。本格的な釜戸で火を起こして米を炊いたり、大鍋にたっぷりのカレーを作ったりと、日常では、味わえない体験をしました。また、昨日までの涸れ川が急な雨で濁流になる様などを目にして、変わりやすい山の天気を肌で感じてきました。聖ステパノ学園小学校のサマーキャンプも、山の村の自然と共に学びを続けてきました。

（小五　ＫＳ）

ぼくが、サマーキャンプで一番楽しかったのは、自然観察です。なぜなら、ぼくの大好きな自然を見てまわったからです。木の太さをはかったり、本物のシカの骨を見たり、モリガエルの卵まで見ることができました。あと、エバハルゼミのぬけがらも見つけました。

それから、キャンドルファイヤーの出し物がおもしろかったです。３班の出し物は、「この絵は誰がかいたでしょうゲーム」をしました。ぼくは、ドラエモンとアンパンマンと初音ミクの絵を描きました。

調理の時は、玉ねぎが目にしみました。でも、カレーは、おいしくできました。後片付けで、カレーのなべを洗うのがたいへんでした。

ついに、帰る時になりました。この富士山麓山の村も、今年の十月になくなってしまいます。悲しいです。ぼくは、ぶな棟にむかって、「ありがとう」と言いました。そして、村を出る会（退村式）をして、バスに乗りました。そして、帰りました。帰る途中で足柄サービスエリアの富士山メロンパンを食べました。ふつうのメロンパンより大きかったので、うれしかったです。

大磯に着きました。大磯が久しぶりに感じられました。そして、学校に入って解散しました。三日間は、ときどき大雨が降ったけど、最後のサマーキャンプは楽しかったです。

（小六　ＳＡ）

【一日目をふりかえって】

ハイキングは、疲れたが、山道が楽しかった。キノコなど色々なものを見た。また、小富士からの景色は、絶景だった。

炊事では、火の係をした。うちわであおいだり、まきをいれて、ガンガンもやしたりもした。それが楽しかった。おいしくできてよかった。

【二日目をふりかえって】

溶岩でとかされた木で洞くつができていた。ハイキングみたいで自然観察は、楽しかった。

キャンドルファイヤーになってしまったが、一班は「聖徳太子ゲーム」をした。おもしろかったのは、六班の「ジェスチャー・ももたろう」だった。実は、おじいさんは鬼だった⁉ みたいで、とてもおもしろかった。

【三日間をふりかえって】

今年で山の村がなくなってしまうけれど、山の村最後の三日間は本当に楽しかった。炊事や自然観察、キャンドルファイヤーなど、とても良い思い出でした。そしてまた、来年は、違うところだけれども、今年のようにがんばっていきたいです。

三年間お世話になりました。

【中学校】

長い夏休みももう終わり。一回り大きくなった生徒たちの日に焼けた顔が、学校に戻ってきました。サマーキャンプの生徒の感想と、夏休み中の活動の様子をお知らせします。

サマーキャンプ三日間を振り返って

（中一　ＡＨ）

今までのキャンプの中で一番楽しかったです。四班は本当に協力ができていたと思います。中二、三の先輩たちは優しくしてくれて、私がわからなくて困っていても助けてくれました。班長はとてもしっかりしていて、頼りになりました。来年から私もこんな先輩になれればいいなと思いました。一日目はいそがしく、慌てることも多かったけど、一日を無事に終わりよかったです。二日目はキャンドルファイヤーで思い出ができました。中学生みんなで楽しめました。三日目は振り返りをしました。サマーキャンプはとても楽しかったなと思いました。そして協力ということを改めて知りました。中三は今年で卒業です。卒業までの間、もっとたくさん思い出ができるといいです。

サマーキャンプ、とても楽しかったです。

（中三　ＡＳ）

今日(三日目)は朝からなんだかとても寂しかったです。なぜなら、今日で人生最後のサマーキャンプが終わってしまうからです。僕は、昨年のサマーキャンプから、ずっとこの日が来てほしくないと思っていました。朝食を食べたり、自分達が使った部屋の掃除をしたりしている時は、これで最後の朝食かぁー、掃除かぁーと思っていました。帰りのバスに乗ると、まだ富士山麓の村から離れたくない気持ちと、できるだけバスの中でみんなと話したい気持ちがありました。友だちや先生と、小学校の頃の話をして、みんなで思い出に浸っていました。

二日間は班長としてすごく大変でした。でも、三日目はバスの中で同じ班の人以外の人とも色々話せて本当に楽しかったです。

今までのステパノのサマーキャンプは、僕の中の一生の思い出です。ひとつずつ僕にとってステパノでやる行事がなくなってしまうのは悲しいですが、一つひとつ一生懸命やっていきたいです。

漢字検定　2019

毎年十回程度の補習を経て、日本漢字能力検定試験を受験します。今年は、小・中学生合わせて五十名が参加。真剣な表情で問題に取り組みました。努力が報われて合格の知らせが届くことを祈ります。

自主学習・部活動・英数補習・職業体験など

充実した時間を自分で組み立てられるように、夏休み中様々な取り組みを用意しました。キャンプ明けすぐの自主学習では、早々と夏休みの宿題をほとんど終わらせた生徒もいるようです。中三対象の職業体験学習では、大磯町の三軒のお店の方にお話し頂きました。運動部は涼しい午前中の時間帯に、集中練習。陸上競技部は、八月末に行われた中郡の大会で、四名の生徒が十月に行われる県大会出場の切符を、手にすることができました。陶芸部では、白いお皿に絵付けの初体験。焼き上がりが楽しみです。

そのほか、環境美化委員会の活動、図書室開放、ステパノまつり実行委員の準備など、学校には毎日生徒の声が響いていました。体も心も、一回り大きくなって二学期開始です。

「一年間の活動をふり返って」

聖ステパノ学園の保護者の会は１９９６年のステパノまつりでのバザーのお手伝いから始まりました。「ステパノ・エンジェルス（通称ＳＡ）」の会名は天使のような子どもたちを応援したいという思いと天使のような優しい親でありたいという思いから命名されております。この思いを受け継ぎ子どもたちの明るく楽しい学園生活を応援するために保護者一同で協力をして活動を続けております。

保護者の皆様にはいつもＳＡの活動にご参加・ご協力いただいている事に感謝しております。役員を務めさせていただいた昨年度は皆様と一緒に活動させていただき成長することができたとても充実した一年間でした。

昨年度は初めてＳＡ主催の「チャリティコンサート」を海の見えるホールで開催いたしました。この「チャリティコンサート」は新体育館建設の話を聞き日頃の感謝の気持ちを何か形に出来ないだろうかというＳＡの思いから企画が始まりました。ＳＡ主催によるコンサートの企画運営は初めての事でしたが学園をはじめ賛同頂いた多くの方々にご協力いただき中学生にも案内や照明などを担当してもらい「追憶と希望の早春コンサート」と題し３月上旬に開催いたしました。聖ステパノ学園の歴史にちなんだピアノとバイオリンの演奏そして学園長先生のお話や澤田美喜先生の思い出話や旧校舎のスライドショーなど、来場して下さった方々に「貴重なお話を聴けて良かった」「旧校舎を見られて懐かしかった」「ピアノとバイオリンを身近に感じることが出来た」「また開催してほしい」など喜んでいただく事が出来ました。コンサートに携わり貴重な経験をさせていただいた事をとても光栄に思っております。

ＳＡ役員は大変なのではないかと思われる方も多いかと思いますがメールで事前打ち合わせなどを行い、協力して活動した事でそれぞれの負担も少なく、先生方をはじめ学園・ホームの方々や保護者の皆様との交流も深めることができ役員として活動して良かったと感じております。保護者の皆様には無理のない範囲でＳＡの活動に参加していただけたらと思います。

ＳＡの活動に参加することで学年の枠を超えて保護者同士が色々な情報を共有したり、思いや悩みを相談出来る良い環境を作れたらと思っております。その環境が子どもたちの明るく楽しい学園生活を送る助けになるのではと思っております。昨年度の役員一同ＳＡの活動がそのような出会いの良い機会になるようにと願っております。

２０１８年度　ＳＡ役員一同

STEPHEN'S NEWS

○実用英語技能検定　４級　合格　小二　ＳＲ
○泳力検定　６級　合格　中三　ＮＧ
○平塚市図書館　読書賞　40冊　中三　ＮＹ
○第二十七回
中郡陸上競技選手権大会

・中学男子
100m　二位　ＡＳ　三位　ＡＳ
200m　一位　ＡＳ　二位　ＡＳ　三位　ＩＭ
800m　二位　ＵＭ　三位　ＫＪ
3000m　一位　ＵＭ　二位　ＫＪ　三位　ＭＫ
砲丸投　一位　ＴＲ

・中学女子
200m　一位　ＮＳ　二位　ＴＭ　三位　ＫＭ
800m　二位　ＹＡ
1500m　一位　ＹＡ

記録証　ＯＳ　ＦＨ
ＡＭ　ＫＳ　ＴＭ　ＨＭ

【編集後記】

残暑の中、ステパノまつりも終わりました。夏休み中のリズムから学校のリズムに切り替えながら楽しく生活しています。（こ）

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒255－0003
神奈川県中郡大磯町大磯８６８
ＴＥＬ　０４６３－６１－１２９８
ＦＡＸ　０４６３－６１－９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇一九年九月十日（火）発行　第235号